

巻頭言

政治資金

財団法人 いも類振興会

理事長 生天目 健 蔵

政 治資金も、金丸さんや竹下さんが表舞台に出ては何らかの決着をつけなければ、おさまらないこと必定となった。筆者もかつて丸20年、某先生のカバン持ちをしたことがあるので、政治資金がどれほどに難しいものであるかは、よくわかっている積りである。

基本的にいえば、政治資金と財務金融基金とは、まったく性質の異なるものであるから、これを同一原理で片付けようとするのも早急の議論である。

さればといって、国民が無関心であってよいわけではなく、無放任とは行かない。なぜというのに、こうしたことは、結局のところ、その大小を問わず国民の納める税金にはね返ってくるからだ。この辺りに問題が伏在しているのではないか、と考える。

財界にいわせると、そのうちに利息を積んで帰ってくるとふんでいる。そしてここで、両者の考え違いや希望のズレが生じ、深まってくる。それは明治憲法実施以来、多くの利口な財界人、政界人がしてきたことであることは証明済みである。

筆者は、全国の商工会議所、商工会主催のセミナーで10年間に約3千回ほど法律の講演を重ねてきた。その間に、地方の財界と政治のくされ縁をイヤというほど見聞したものである。

ある時のこと、長崎に講演に行った帰途、北九州の空港まで車で送って貰ったことがあ

て、その間に地元の某大物政治家の政治資金について聞かされたことがあったが、つまるところ出資者も適度に利用し合って利子を稼いでいるということであった。今は、もっと利口者が増えていることだろう。

地方にも役職が増えた。市長、市議長、県議、会議所会頭、その他地域振興に関するものまで、必ずしも金を消費するばかりではなく、その意味では関係者のみんなが利口になっている。それに、将来においては地方のガソリン・スタンドの比重が重くなって、それが地方の財界、政界の中心となりかねない。そういう意味では、すでにこの業種は地方財界の目標となっており、2世や3世が活躍しているといえよう。

そういうことだが、さればといって改めて地方の財界をカキ回すほど大きな流れではないので、大袈裟に釘をさすほどのことでもないと思う。

政 治資金は、今後は地方財界に目標がおかれると思う。その意味では、実際の経済の範囲がどういうものか、それぞれ地方によって深浅がかなり違ってくると思う。したがって地方都市・商店街の発展と繁栄に伴って、思わぬ地方財界人、地方政界人等が輩出することと思う。

その意味で、政治資金については面目を一新して考える必要があろう。